

## バイオリソースセンター業務における臨床検査技師の役割

◎倉島 佳歩<sup>1)</sup>、佐藤 伊都子<sup>2)</sup>、福岡 知也<sup>1)</sup>、河野 瑠璃<sup>1)</sup>、宮田 吉晴<sup>3)</sup>、今西 孝充<sup>2)</sup>、矢野 嘉彦<sup>2)</sup>、松岡 広<sup>3)</sup>  
神戸大学医学部附属病院バイオリソースセンター<sup>1)</sup>、国立大学法人 神戸大学医学部附属病院 検査部<sup>2)</sup>、神戸大学医学部附属病院バイオリソースセンター、神戸大学大学院医学研究科 バイオリソース研究・開発推進学分野<sup>3)</sup>

【目的】神戸大学医学部附属病院バイオリソースセンターでは、研究や開発などの研究機関のニーズに沿ったヒト検体および検体医療情報を提供できる「ニーズドリブン」型のバイオバンクを目指し、2020年6月より運用を開始した。当センター業務における臨床検査技師の役割を、共同研究開始の前段階から終了まで順を追って紹介する。

【取り組み】①研究機関へのニーズヒアリング：研究者のニーズに即した検体を提供できるよう検査部における検体収集条件の提案や見込み件数などを調査する。また、必要とする医療情報も聞き取り、実施可能性を確認する。②研究計画の立案：ニーズを反映した臨床研究計画の立案に際して研究者への助言を行う。新規検体採取の場合は、診療科への依頼手順や採取方法なども提案する。③研究開始準備：検体処理手順や検体収集手順などの標準作業手順書を作成する。各診療科の協力が必要な場合は、マニュアルを作成し診療科への周知を行う。研究機関へ収集検体を輸送する場合には業者手配や日程調整などを行う。④研究実施：計画書に沿った検体収集を実施し、バイオバンク検

体・医療情報管理システム（LIMS）を用いて在庫管理と保管を効率的に行う。払い出し時は出庫した検体だけでなく品質報告書や必要な医療情報も提供している。輸送中の温度も管理する。提供進捗により、臨機応変に収集条件の変更調整および提案に取り組む。診療科で発生した同意書や症例報告書など書類の管理も行う。⑤広報・学術活動：得られた研究成果を基に学術活動を行う。また、バイオリポジトリ技術管理士（BiTA）の取得を目指している。

【結語】バイオリソースセンターでの臨床検査技師の業務は検体収集だけではなく、共同研究の立案から終了まで深く関わり、研究の円滑な遂行に大きく寄与する。将来的にはバイオリソースセンターで働く臨床検査技師が臨床現場の視点から助言を行うことで、検査機器や試薬の開発・改良に繋がると考えられる。

連絡先—078-302-7111